

◎ 「新しい歴史教科書をつくる会」教科書
東京都・愛媛県「養護学校・ろう学校生徒に押しつける」
―採択の実績作りのためのひどい差別―

◆多くの国民から「侵略戦争肯定」「歴史歪曲」と批判された「つくる会」の教科書は、全国の市区町村立と国立の中学校では採択ゼロでした。国民と教育委員会の良識が一致して、今回は、平和と民主主義と人権に立つ教科書を守ることができました。民主主義と平和憲法の勝利です。よかったですね。

◆しかし、ガマンのできないことがあります！
東京都と愛媛県の教育委員会は、公立の養護学校とろう学校に学ぶ「弱い立場の生徒たち」に、「つくる会」の問題の教科書を採択して押しつけたのです。何が何でも採択したという実績を作り、四年後の採択の足がかりとするために、養護学校・ろう学校生徒を犠牲にしたのです。何という差別的・政治的な教育委員会の態度でしょうか。断じて許せません！

◆「つくる会」の教科書は、平和憲法と違う戦争肯定や民主主義を否定する問題の教科書である上に、中学生にとっては大変むつかしいので、一般の公立中学校では採用しなかったのです。
その問題の教科書を、細やかな愛と配慮を、より必要とする養護学校や、ハンディを負ったろう学校の生徒たちに押しつけるとは、東京都・愛媛県の教育委員会は、本当に愛の一かけらもない冷酷な姿勢そのものです。

◆これは、日本の教育の危機です。四年後の採択のときには、必ず採択を撤回させましょう！

二〇〇一年九月九日（日）第四一五回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〜十五